



2022年6月



かてい

2022年6月3日発行

▼巻頭言

横浜家庭学園 園長 田辺 有一

学園に就任した年を振り返って

平成29年4月1日に園長に就任して、早いもので5年という月日が経ちました。その時、印象的だったのが「楠の大木」です。この大木を見て何人の子どもが育ったのかと思うと、学園の歴史を感じました。恐らく樹齢は200年を軽く超えているのではないのでしょうか。

就任したての出来事を少し思い出してみると、4月には初めての始業式、その後のお花見バーベキュー。食堂からテーブル・椅子をグラウンド中央に出し、各グループでのバーベキュー、子ども達と職員が協力して肉や野菜を焼き、美味しく食べ・話し・楽しいひと時を過ごした事は思い出となり、毎年の楽しみでもあります。

5月には春の運動会。応援には近隣の方のMさんや、星槎国際高等学校の先生方

もお越しになり、子ども達や職員みんな1日かけて楽しみました。学園の運動会では子ども達は勿論、職員もほぼ一緒に争いますので、翌日はみんな筋肉痛になります。

6月は小雨の中、奥多摩の日の出山に登りました。子ども達は全く疲れを見せず登り、山頂ではココアやお茶をつくり他の登山者に振舞ったりする姿をみて、気遣いの心に感動したのを覚えています。

そんな子ども達も今は20歳を超えている子どもも多いと思います。今年4月から18歳が成人となりましたが、個人的な意見としては、20歳が成人でも良いような気がします。

現在学園では、20名の子どもが生活しています。5年前とは大きな違いがありますが、一方で新型コロナウイルスにより生活が変化する中、子ども達が少しでも生活の潤いを感じられる行事や日々の生活が戻るよう祈っています。

ページェントとは、「歴史的な場面を屋外・屋内で行う劇のこと」という意味なのですが、私たち家庭学園では、「イエス・キリストの生誕劇」を指し、毎年12月26日に開催している

「横浜家庭学園クリスマス礼拝」を発表の場として、11月から練習を行い、クリスマス礼拝を迎えます。

家庭学園における「ページェント」というコンテンツは、卓球やマラソンといったスポーツのように明確な勝ち負けが無く、何かのコンテストにエントリーして披露するわけでもありませんので、「既存の価値観」があまりなく、「在り方」や「価値」はあくまで職員が彼女たちへ伝え、彼女たちがどう捉え、どう扱うかに拠る割合が非常に大きいことが特徴です。

前述のように今年も令和3年12月26日に行われたクリスマス礼拝にて披露しましたが、職員にとっても彼女たちにとっても濃密で貴重な体験となりましたので、今回の広報誌に掲載することにいたしました。

毎朝の礼拝で賛美歌を歌うなど、いつも快活で大きな声を出すことに比較的抵抗の少ない彼女たちですが、「劇」という決まられたシナリオに従ってただ大きい声を出すだけでなく、そのシーン、登場人物の設定や背景などを加味して

適切に発声するのは簡単ではありません。多感な12歳〜18歳のみんなにとっては恥ずかしいと思う気持ちもあるでしょうし、内心「やりたくない」と思いながらも周りに合わせて渋々やっている、という気持ちの子もいたと思います。

しかし、一人ひとり感じ方がそれぞれ違いはあれ、「確かな成長の機会になった」と感じられます。「何事にも全力」な家庭学園の一幕に過ぎませんが、「何か打ち込むことが出来た」日々は代えがたい財産になってくれるでしょう。

最後に、彼女たちが書いてくれた作文の一つを紹介します。

令和3年度クリスマス・ページェント

児童作文

『ページェント』

実習科1年 Y・M

私は今回演出という役割をもらいました。最初、水谷さんに伝えられた時は、嬉しさと同時に自分の話をみんな聞いてくれるかなと不安になりました。でも練習が始まって、協力してくれない子も中には居るけどほとんどの子が協力してくれてほんとに嬉しかった。ページェント

の演出をやる上で意識していたことは、みんなが私の話を聞きたいと思ってくれるような生活にすることです。

私が演出になって最初の方は注意すらできなくてどうしていいかわからなくなっていたけど水谷さんや宅島さんと話していくうちにだんだんと伝え方が分かってきて伝えられるようになってきました。

そしてページェント本番。自分のセリフを間違えないかなあとみんな頑張ってくれていたのりながらステージへ行きました。そして、ページェントは大成功。いろいろアクシデントはあったけど、みんなそれに対応していて良かった。練習の時より、声もでてたし、笑顔だったし!!

今の私は、ページェントがおわってちよつと油断してきているので、またひきしめて、みんなのお手本となる生活ができるようにしたいです。

宅島さん、水谷さん!! 私にいろいろ教えてくれてありがとうございました。

(原文ママ)

※ 宅島・水谷はともに職員の氏名です

学園のおいしいごはん

アイルランドの文学者、ジョージ・バーナード・ショー曰く

「食物に対する愛ほど、

誠実な愛はない」

という言葉がありますように、私達が生きていくうえで楽しみであり、健康の源でもある食事ではございますが、もちろん、毎日栄養バランスの取れたおいしいごはんを食べている家庭学園の子ども達は、とつても元気で活力に満ち満ちています。

そこで学園の栄養士さんに、学園ならではの大切にしていることなど、お話しをお聞きしましたので掲載いたします。

学園ではみんなのごはんを作っている調理場の事を『炊事場』と呼び、昔から親しまれています。

お肉や魚介類、お野菜はもちろん、手作りデザートまで、勉強やスポーツに励む子ども達のために栄養バランスを考えたいごはんを、味付けだけでなく、子どもが喜ぶ見た目の鮮やかさや食感、温かい

ものは温かく、冷たいものは冷たいままで、できるだけおいしく食べられるように工夫しています。

しっかりとした学校給食というよりは家庭的な雰囲気や大事にできるような、炊事場の調理員それぞれがおいしく作れるように努めています。好き嫌いの多い子、なんでも食べる子、いろいろな子がいますが、食べ盛りの子ども達は『これがおいしかった』『学園に来て初めて食べた』『嫌いだったものが食べられるようになった』と聞くと、とても嬉しく励みになります。

月1回で開かれる子ども誕生会では、その月の子ども達で、自分達が食べたいものを自分達でバランスよく考え、炊事場の人と相談して、いつもよりちょっと豪華なごはんを、ケーキやアイス、ジュースなどをみんなで食べます。また普段の献立でも、子ども達のみならず、毎日奮闘している職員のリクエストを聞いて、食べたいものを栄養バランスのとれた形で提供するようにしています。

高校生くらいの年齢になると、職業訓練という形で炊事場に子ども達が入るこ

とがあります。ボランティアやアルバイトなど外に出る前の練習として、挨拶や言葉の遣い方などを炊事場の仕事を手伝いながら身に着けます。今後、社会に出て仕事をしていくうえで、うまくやっていけるように、みんな緊張感をもってやっています。子ども達と一緒に仕事をしつつ、学園を退園しても役に立つように、食のことだけでなく、それ以外にも必要な知識を会話の中で教えるようになっています。

炊事場は家庭学園の『衣・食・住』の食の面で大きく携わらせていただいておりますが、子ども達には私たちの作る日々の食事から、ちょっとした愛情が伝わっていればと願い、また退園した子ども達が大きく育ち、いずれ家庭の味になっていくように、試行錯誤をしながらこれからも精進して参ります。

(庶務課炊事場 栄養士 近藤うらら)

おいしく栄養満点の食事を作っています!



寄付のお礼

このページでは当学園にご寄付をしていただいた皆様をご紹介させていただきます。(掲載対象期間2021年7月1日～2022年2月28日)

【団体様】

一般社団法人養豚協会様・厚生労働省新型コロナウイルス対策本部検査班・学校法人上星川学院上星川幼稚園様・公益財団法人報知社会福祉事業団様・横浜ベイホテル東急様・保土ヶ谷区更生保護女性会様・ドミノピザ洪福寺店様・クレイン不動産流通株式会社様・神奈川県トヨタ自動車株式会社様・株式会社日本動熱機製作所様・関東学院中学校高等学校様・保土ヶ谷区社会福祉協議会様・横浜伊勢佐木ライオンズクラブ様・横浜長者ライオンズクラブ様・神奈川県共済生活協同組合様(順不同)

【個人様】

山口香織様・清水孝徳様・内藤美知子様・皆川康子様・森啓子様・立石圭子様
(順不同)

寄付物品等のご紹介

この度は、過分なご寄附を賜りまして、誠にありがとうございます。感謝の意を込めまして、いただいたご寄附の中から、いくつかご紹介させていただきます。秋という季節といたしましては、様々な「顔」を持つています。特に「味覚の秋」ということで、皆様から多大なお菓子のご寄附は勿論のこと、桃やイチゴなど、とても瑞々しい「顔」をした果物もいただきました。つついたくさん食べてしまう子ども達の姿を見るのも、学園の秋の「顔」と言えるのかもしれません。また12月には、クリスマスケーキのご寄附をいただきました。この時期にのみ味わうことが出来る幸せを、口いっぱい感じている子ども達の姿を見ると、職員も自然とあたたかな気持ちになりました。新型コロナウイルスが未だに収束せず、不安な毎日が続き、また皆様におかれましてもご多忙な日々をお過ごしと存じますが、このようなご時世にもかかわらず、過分なご寄附を賜りましたことを、改めて感謝を申し上げます。



編集後記

前回の広報誌の発行より4ヶ月が経過し、ようやく、前回の宣言通り、今年度第2号を発行する運びとなりました。その間、新型コロナウイルス第6波到来により世間は混乱を極めて参りました。しかしこのような状況下でも家庭学園では、子供達も私達職員も、日々沢山の学びの機会を得、驚異的成長を続ける事が出来ております。これも、ひとえに皆様のお借りして深謝申し上げます。引き続き、当園をよろしくお願い申し上げます。

(編集：松浦・貴田・宅島・岸川
浜田・馬場)